



どんぐりの まきかた、育て方



どんぐりまきに精出す人々(森林公園)



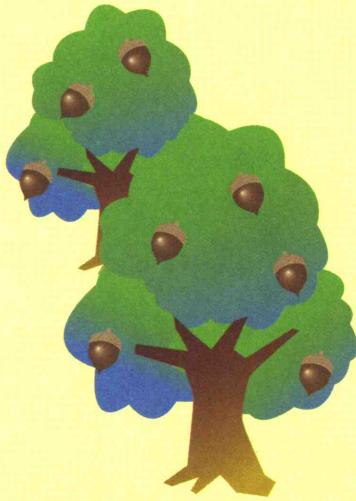
社団
法人 三重県緑化推進協会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地

TEL (059) 224-9100

FAX (059) 224-9118

「どんぐり」のまきかた、育て方



どんぐりの森は新緑と紅葉の美しい明るい森です。

明るくて美しい森は、私たちに住みよい環境を作ってくれます。そして私たちだけでなく森に住む動物や虫、そして草木たちにとって気持がよい空間を与えてくれます。

どんぐりの木は一度根を張ると、何度も切られても切り株から芽を出して成長する生命力にあふれています。

みどり豊かな地球にするために、あなたもどんぐりの木を育ててみませんか。そして、あなたの育てたどんぐりの苗木がやがて大きな森林、憩いの森林となるようにどんぐりのまきかた、育て方を載せましたので参考にしてください。

どんぐりとは、ブナ科のコナラ属、シイ属、マテバシイ属の木の果実のことです。

1 樹種別にあげると

★ブナ科のコナラ属

※常緑高木～アカガシ、シラカシ、アラカシ、イチイガシ、ツクバネガシ、ウラジロガシ

※常緑中低木～ウバメガシ

※落葉高木～クヌギ、コナラ、カシワ、ミズナラ、ナラガシワ、アベマキ、

★ブナ科のシイ属

※常緑高木～ツブラジイ、スダジイ

★ブナ科のマテバシイ属

※常緑高木～マテバシイ、シリブカガシ



2 どんぐりの採取

種の採取時期は10～11月頃で熟して自然に落ちたものを1～3日の間に拾い集める。

種は日あたり地に落ちて乾燥すると発芽力が急速に低下します。

拾い集めたどんぐりは、一昼夜程度、冷水に浸けて殺虫を兼ねて水選します。





どんぐりポット苗木の作り方



1. 種のまき方

種を精選後速やかにまくのが最も好ましい。「とりまき」ができない場合は、低温貯蔵し翌春（2～3月）にまく。

▶ ① 育苗箱へまく場合

深さ12cm～15cm位の木箱か、市販されている花壇用プランター（プラスチック製の）箱を利用する。箱の底には、適宜小穴、隙間をあけて排水をよくする。

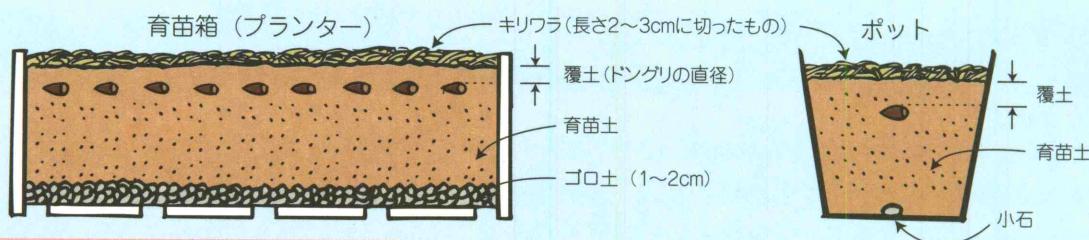
育苗箱の底には、まずゴロ土を1～2cm程度いれる。

その上に育苗土（山土と腐葉土を混ぜたもの）を10cm程度いれる。

水浸、選別したどんぐりを横にして等間隔（5～6cm間隔）にならべる。

どんぐりが隠れる程度（どんぐりの直径1～2cmの覆土）育苗土をかぶせる。

種が乾燥しないようにキリワラ（長さ2～3cmに切ったもの）を厚さ1～2cm程度敷く。



▶ ② ポットへ直接まく場合

ポットは市販されているビニール製の口径10.5～20.0cm、深さ15.0～20.0cm程度のものを使用する。大苗を作る場合は口径20.0cm以上のポットを使用する。

ポットの底穴の上に小石をおく。（どんぐり苗木の場合は、根がネットに絡みつくため鉢底ネットの使用はしないこと）

育苗土（山土と腐葉土を混ぜたもの）を8分目程度いれる。

水浸、選別したどんぐりを横にしておく。

どんぐりが隠れる程度（どんぐりの直径1～2cmの覆土）育苗土をかぶせる。

水で湿らせたキリワラ（長さ2～3cmに切ったもの）を厚さ1～2cm程度敷く。

▶ ③ まいた後の育苗管理

水で湿らせたキリワラが乾燥しないうちにジョロで静かに水やりをおこなう。

ただし、水のやりすぎは禁物。育苗箱に樹種名を記載したラベルをつける。



【春まき用どんぐりの貯蔵方法】



◆湿った砂かオガクズなどと混ぜ合わせたビニール袋に入れ、密封のうえ冷蔵庫（5℃前後）に貯蔵する。（砂などは手に握りしめた時に指の間から水がにじむ程度）

◆土を20～30cmくらい掘り、ネットに入れて貯蔵する。この場合は野ネズミに食害される恐れがあるので金網などでカバーする必要がある。

2. 移植(プランターへ種まきをした場合)

育苗箱に種まきして育てた場合は、発芽後、ポットに移植して育てなければならない。

とりまきの場合、落葉の樹種では3月頃迄に根だけはしっかり伸びる。常緑のものではすこし遅れて3~4月頃に根が伸び始める。いずれの場合も根が伸び始めた後に芽が出てくる。そして、2~4枚の葉が出た頃ポットへ移植する。

(1) 移植の時期

発芽時期は種まきの時期と関係が深く、また地域や種まき床の条件によって異なるがおおむね4~7月が移植の時期である。

とりまきの方が春まきより一般に発芽時期が早く、芽が出揃うまでの期間も短い。

一斉に発芽しない場合もあるため、発芽の状態を観察しながら芽が出そろった時点で移植するのが好ましい。

(2) 移植の場所

移植の作業は、根の乾燥を避けるために日陰で風当たりの少ない場所で行う。

稚樹の細根を直接日光にさらすと枯死するので注意する。

十分な水を必要とするので水道などに近い場所が好ましい。

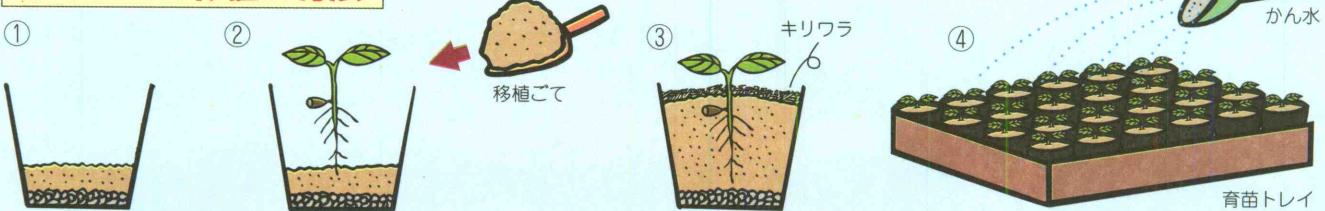
(3) ポットへの移植方法

移植ごとでどんぐりをつけたまま、一本づつていねいに掘り取り、ただちに移植する。

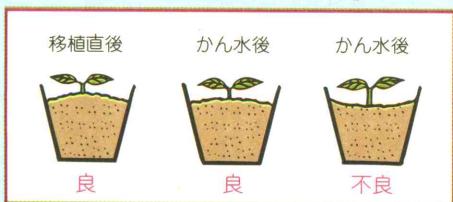
ポットは直接種まきの場合と同じに、口径10.5cm~20.0cm、深さ15.0~20.0cm程度のものを使用する。

- ① ポットの底に小石を敷き、培養土を3分いれる。
- ② 苗木をポットの中心に入れて、まわりから土をかける。
- ③ 苗木の根を土になじませながら、やや引張ぎみにし、軽くおさえる。
- ④ 育苗トレイにポットを並べ、十分に灌水する。(移植後30分の間に2回灌水することが望ましい)

ポットへの移植の方法



【ポットへの土の入れ方】



育苗トレイ(58cm×40cm) 使用例

